日刊 動労千葉
80.10.29
No. 569
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二ー八（動力車会館）
（鉄電）二三五八～九・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

乗務員運用合理化阻止へ総決起を

10・27局前「四一七名が結集

「乗務員運用合理化阻止、10・27動労千葉総決起集会」は、全支部から乗務員を中心に四一七名が結集し開催された。集会は、さながら動労東京の「九月裏切り妥結」弾劾の場と化した。そして、当局・「本部」反動分子が結託した「11・1乗務員運用合理化」強行姿勢に対する怒りを叩きつけ、八一年三月燃料輸送延長策動を断固として阻止する決意をうち固め、意気高く千葉局前集会、局包囲デモを貫徹した。闘いはいよいよ正念場に突入した。動労千葉の真価をかけて前進しよう。

県労連・社会党代表が支持・連帯のあいさつ

十七時三十分からの青年部による独自集会・デモが行われ、集会の雰囲気は大きく盛り上がるなか、組合員が続々と結集する。定刻十八時布施執行委員の司会で「10・27総決起集会」は始まった。

冒頭、闘争委員会を代表して関川委員長は、「今回の乗務員運用合理化攻撃は、『55・10ダイ改』に次ぐ八一・三ジェット決戦を前にした第二の組織破壊・闘争圧殺攻撃だ。断じて許せないことは、この合理化を動労東京は、組合の側から卒先協力して裏切ったことだ。東京が妥結したいまわれわれの闘いは困難な局面にある。しかしわれわれは、幾度かの試練にかちぬいてきた。乗務員合理化との闘いを『五六・三』の闘いとしてとらえ全力を挙げて決起しよう」と力強い決意を表明した。

つづいて、千葉県労連の小出副議長、社会党県本部の市川副委員長からの連帯のあいさつをうけた。

小出副議長・市川副委員長は、それぞれ異口同音に「今回の合理化攻撃は、政治の反動化と無関係ではない。自民党は労働者がかちとった既得権を一切剥奪する攻撃をしかけている。その一環が今回の合理化攻撃だ。闘いに決起した動労千葉に対し共に闘う立場から支持し連帯する」と力を込めたあいさつがなされた。

さらに、山口交渉部長からの交渉経過報告をうけた後に、中野書記長から次のような基調報告をうけた。

（一）動労千葉結成以来最大の試練として運用合理化十一月一日強行実施の攻撃がある。従来の合理化と異なり、東京三局の十月一日実施の妥結の際に千葉も十一月一日におとすことを条件にしたという。ここに示されているように「五六・三」にむけた動労千葉への組織破壊攻撃である。

（二）動労東京の態度は、昨年八月の大会で「協定外の要員はき出し」論をもって組合が合理化の尖兵・水先案内人に成り下ったことを鮮明にした。ここに動労千葉が分離独立をかけて闘った闘いの正しさが証明された。

（三）国労・動労中央は、仲裁裁定実施のために「五五・一〇」、「再建法案」を取り引き材料にした。このままでは、年末・年度末手当等々が取り引き材料にされ増々屈服の道を歩むことは必至だ。これでは国鉄労働者の利益を守ることはできない。労働運動の原則をつらぬくためには、厳しい条件にも耐えうる組織をつくらねばならない。

（四）動労千葉は、乗務員運用合理化攻撃に対し真向うから受けて起ちあらゆる場を活用して闘う。

そして「本部」反動分子の乗務員運用合理化の裏切りを弾劾し全国の仲間の決起を作りだそう。と提起した。参加者は全体の拍手で確認し、闘う意志一致をかちとった。

最後に、片岡（津田沼）鶴岡（勝浦）の各支部代表と田中青年部長の決意表明をうけ、局前デモを貫徹し、成功裡に終了した。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！